

朝鮮民主主義人民共和国、その創建と教育過程

ベネズエラ金日成・金正日主義研究所所長
イエセニア・ガルシア

1948年9月9日に創建された朝鮮民主主義人民共和国は数十年間の日本の占領から解放され、1953年にアメリカの停戦調印の以後、祖国の復興建設のために教育に引き続き力を注いでいます。

長い歴史をもつ人民と自分自身の単一性を強固にしてきた国の歴史と文化を根こそぎにし、抹殺するあらゆる行為との度合い強い闘争の年の連続でした。

この共和国の創健者である金日成主席にとって日帝と米帝に反対する遊撃闘争と祖国解放戦争のもっとも決定的な瞬間にも教育はいつも第一義的な問題でした。

日本帝国主義に反対する金日成主席の闘争が軍事分野にだけ行われたのではなく、朝鮮人民の記憶の中から人民と祖国を湮滅しようとした試しにも対抗しなければならなかったことについて強調するのが重要であり、必要です。今日の社会的・政治的および教育的情勢を調べることは、日本が支配的かつ植民地主義的な力量として出現した際から朝鮮人民が繰り広げた闘争の全過程を知るようにします。日本占領の時から朝鮮で発生された民族抹殺過程についての理解をもつのがわれわれの組織にとって必要です。日帝は当初から朝鮮人民の民族性を抹殺するための政策を施しました。

ここで親日教育と植民地主義的教育は根本的な役割を果たしました。

金日成主席の賢明な指導のもとに日帝の植民地教育の悪影響をなくすことは、朝鮮の革命的な教育において提起される基本課題の一つでした。

金日成主席は次のように述べています。

「学生にわが国の言葉と文学、歴史と地理、文化をよく教えなければなりません。そうすれば、青少年が高い民族的誇りと自負心をもって祖国と民族を愛し、新しい朝鮮を建設するために献身的にたたかうことができます」

この教えは革命過程において教育が引き続き必須的であることを知る事ができます。

これは創建されてから今日にいたるまで朝鮮民主主義人民共和国の教育課程において現れた継承性を明らかにします。

祖国が解放された直後、金日成主席の尊名を冠した金日成総合大学が創立されました。この大学は国のもっとも重要な大学であり、朝鮮人民の能力と潜在力から出発した人民的な施設として知られています。

金日成主席自身も次のように述べています。

「今後総合大学では、勤労人民の子弟を祖国と人民に忠実に奉仕するりっぱな民族幹部に養成しなければなりません。そのためには学生に、わが国の実情に適した教育をほどこし、新しい朝鮮の建設に役立つ生きた知識を多く学ばせなければなりません」

朝鮮民族と朝鮮の教育の形成と創設の全過程についての理解では、主席が創始し、発展させてきたチュチェ哲学の幅広い知識を持つことが必要です。

金日成主席は次のように述べています。

「チュチェ思想とは、一口にいて、革命と建設の主人は人民大衆であり、革命と建設をおし進める力もまた人民大衆にあるという思想であります。いいかえれば、自己の運命の主人は自分自身であり、自己の運命を切り開く力も自分自身にあるという思想であります」

チュチェ哲学は朝鮮の創建、創始の全過程において中心路線であり、チュチェ哲学が出現した時からそれは教育の主な支持点となりました。この他の全てのもの、科学と技術、経済と文化もこの思想すなわちチュチェ思想に貫かれており、それは朝鮮の存在と要塞を可能にします。ここでもっとも重要なのは国際舞台において幅広い外交関係を結ばせ、帝国主義勢力との対決における団結力によって世界の尊敬を受けるようにします。

朝鮮民主主義人民共和国の形成と創建過程を歴史的に省みると、朝鮮半島で米国人の出現について言及するのが必須的です。

ソ連が第 2 次世界大戦で勝利すると日本は敗北し、朝鮮半島は北と南の二つの地域に分かれるようになりました。それは引き続き不安をかもし出す分裂であり、朝鮮半島を単一国家にするために行われるすべての試しはアメリカとその傀儡によって支障を受けています。

上記のページで明らかにしたように 1948 年、朝鮮民主主義人民共和国の創建は金日成主席の指導を受けている朝鮮人民の米日帝国主義に反対する闘争の産物でした。

それらの闘争は平和で共生する世界で生きるために闘う世界人民のモデルとなりました。朝鮮人民の闘争は光を与える灯台となり、アメリカを頭目とし、その追随国に転落した諸国をはじめとした西方の覇権主義的主張に勇敢に対抗する共同の諸国において日増しに大きな影響力を発揮しています。

共和国の発展過程は 1950 年から 1953 年の間に行われた朝鮮戦争を抜きにしては考えられず、また考えてもいけません。この戦争は外国勢力のない領土になるために最後までたたかった民族を強め、現在われわれが朝鮮民主主義人民共和国であると知っている国家を帝国主義から守るようにしました。

朝鮮戦争は自分自身の道を求めるために闘争する人民に反対して起こしたアメリカ

帝国主義の最初の侵略戦争の中の一つでした。

それはこの帝国の最初になる大きな敗北でもあり、これは国の利益のために闘争し、領袖の卓越した指導を受け、自己の歴史的義務に対する明白な意識を持てば彼らに打ち勝てる敵はいないということを諸国の人民に教えました。

帝国主義威嚇を抑制するための朝鮮の核発展と立証された力に対して今は誰も論じず、もっとも発達した諸国の中で任意の国の大統領と自己の見解と立場を直接討議できるようにしました。

ソ連は消え、東ヨーロッパの強い政権も崩れました。しかし朝鮮は難関と制裁の中でも健在しています。そして自体の力（チュチェ哲学）と自分たちの領袖と人民の頑強さから出発して懇切に抱いていた人民の夢と願望を力強く成就しています。

現在、朝鮮民主主義人民共和国は金正恩総書記の指導のしたに金正日総書記の遺訓を徹底的に貫徹し、前進しています。

全党、全民、全軍は 1948 年 9 月、共和国の創健者である永遠なる金日成主席の念願であり、希望であったその理想を現実により具体化するために引き続き闘争しています。